

# 小論文

作成テキスト

Doors.

# 目次

小論文とは.....	1
小論文作成の注意点 10ヶ条.....	4
文章作成のルール.....	6
PART1 ～小論文作成の解説(基本編)～	
小論文の書き方.....	8
小論文の構成.....	9
思考整理.....	12
文章の起こし方.....	21
文章表現.....	41
PART2 ～小論文作成の解説(応用編)～	
多種多様な設問への対応方法.....	45
PART3 ～小論文作成の裏ワザ～	
独自性のある小論文を書く方法.....	52

SAMPLE

# ■はじめに

大学院によっては入試の際に「小論文」を書かなくてはならない場合があります。受験生であるみなさんは、小論文の執筆に関する正確な知識、作法について把握しているでしょうか。

高校、大学のAO入試で、小論文の書き方を習った方や、大学の授業で習った方もいると思いますが、小論文の書き方を習ったことがないという方もいると思います。もし、書き方について知らなかったとしても何の問題もありません。

このテキストでは、初学者の方のために基本的な小論文の書き方はもちろん、短期間で小論文の作成能力を向上させるためのノウハウも解説しています。また、このテキストで学んだノウハウを活用すればよりレベルの高い大学院の入試に挑むことも可能となります。

小論文上達のカギはいかに早く基本を自分のモノにできるかというところにあります。そのためには、小論文の練習をし、少しでも早く自分の中にノウハウを定着化させましょう。そうすることで、様々なテクニックを身に付けることができ本番でも十分に力を発揮することができるとでしょう。

最後に小論文は決して難しい科目ではありません。練習を繰り返し、コツを掴んでくれば入試における強力な武器とすることができます。

このテキストを存分に活用していただき、みごと志望校に進学できるよう一緒に頑張っていきましょう。

# 大学院入試における小論文とは

大学院入試の小論文試験について基礎的な知識を説明します。

## 大学院入試における小論文

大学院入試での小論文の書き方について解説を始める前に、そもそも何故、大学院は受験生に小論文を書かせるのでしょうか。

それは、試験官たち(大学教授)が小論文を通して、受験生の基礎学力や論理的思考力を把握しようとするからです。

そして、何の練習もせずいきなり小論文試験に取り組んでも、支離滅裂な文章となってしまいます。自分の主張の本質とするところが伝わらないと、この人は物事を論理的に考えることができないという評価が下され、研究していくのが難しいと思われるてしまいます。そうならないためにもしっかりと練習をしておきましょう。

### 小論文試験の実施

大学院の研究で必要となる基礎学力  
や論理的思考の見定め。

小論文の出来が悪いと研究者の資質  
を疑われ、合格が難しくなる。

## 小論文の考え方

小論文では、いったい何を書けばいいのか、他の文章との比較を通して解説したいと思います。

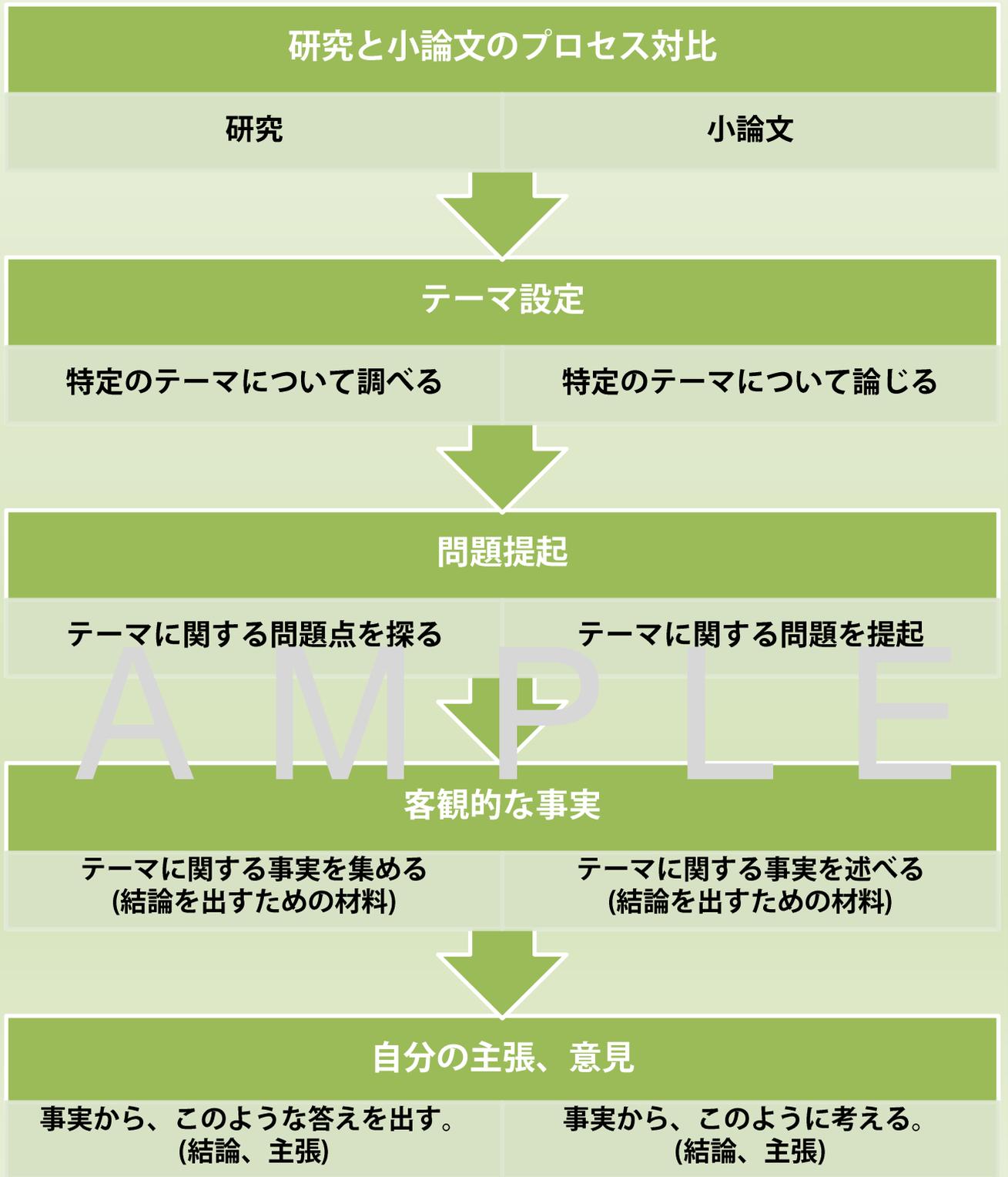
まずは、以下の表を見てください。

	小論文	作文	レポート
記述する内容	客観的な事実に基づく、自分の考え。	個人的な経験や体験、考え、感情。	設定されたテーマの調査、報告。
文章表現の方法	特定のテーマに対し、問題設定を行い、答えを示す。そして、なぜそのように考えたのか理由根拠を挙げ、考えを述べる。	感じたことや心に残った出来事に関して、なぜそのように感じたのか、その理由を説明しながら自由に意見を述べる。	出来事や問題点から特定のテーマや課題を設定し、調査を行う。そして、そこから得られた事象やデータ、結果を報告する。
必要な能力	客観性、論理性	感受性、表現力	正確性、客観性

大学院入試での小論文は作文やレポートとは異なり、出題された設問テーマに対して、自分なりに問題を提起し、議論を深め、そこから意見を主張することが求められるのです。

そして、小論文を書くプロセスと大学院で行う研究のプロセスは、ほとんど同一なのです。次の表を見てください。

## <大学院での研究と小論文の関連性>



このように、小論文の作成からでも研究者の資質を読み取ることができ、「この受験生は本当に研究を行うことができるのか」ということを確かめることができるのです。

## 小論文作成の注意点 10 ヶ条

小論文の作成には、ルールが存在します。そのルールを破ってしまうと、評価が下がってしまったり、採点が厳しくなってしまいます。

①

### 具体例を挙げて論述する

- 抽象的なことや読み手に伝わりにくい文章では、説得力がありません。具体的な記述を心がけ自分の主張に深みを持たせることで、試験官にアピールすることが可能となります。

②

### 並べるだけの文章にしない

- 小論文には、表現する時間、文字数に限りがあります。様々なことに言及すると、かえって1つ1つの主張は内容の薄いものとなってしまいます。基本的に1つの小論文では、1つのこと主張し、その内容を掘り下げていきます。

③

### 感情的な表現はしない

- 論理的な文章というのは、客観的な事実に基づいた主張をすることが前提になります。感情に任せた好き、嫌い、良い、悪いなどの主張で終始するようでは、事実を客観的に捉えることができていないと思われてしまいます。

④

### 一文を短く簡潔に、段落は明確に

- 一文が長いと文法に誤りが生じてしまったり、本当に伝えたいことが不明瞭になってしまいます。これを防ぐためにも、一文一文を簡潔に書き、続く文章でその文に補足、説明を加えていくようにしましょう。

⑤

### 論文の文体は「だ・である」調

- 小論文の記述や大学院での研究論文でも、原則は「だ・である」調です。普段使い慣れているからと言って、「です・ます」調にならないように気を付けましょう。

⑥

## 文章語で書く

- 小論文は正しい日本語を用い、文章語で書きます。「かなり」、「いろいろ」、「そんな」、「~でしょう」などの口語的な表現を使文中で使ってはなりません。

⑦

## 芸能ネタスポーツネタは避ける

- 芸能、スポーツネタは議論の展開において相応しくありません。社会人であろうが、学生であろうが出題テーマでやむを得ない場合を除いては、受験生の知識の不足を感じさせます。

⑧

## 社会に目を向ける

- 小論文は、作文ではないので個人の主観に頼った主張の展開ではなく、社会的な事実に着目する必要があります。特定のテーマに対し、なぜそのような状況になっているのかその原因、社会的背景にまで考えを巡らせましょう。

⑨

## 自分の得意分野に引き込む

- 小論文の作成に慣れると、不得意な分野や専門外の領域に関する出題がされても、自分の得意分野につなげて理論展開することができるようになります。しかし、その方法を間違えると強引な理論展開になってしまうので注意が必要です。

⑩

## 万人が理解できる文章にする

- 小論文の記述においては、学術的な知識を用いるのも有効な方法ですが、その内容が自分よがりだったり、意味が通じなければ全くの無意味となってしまいます。誰が読んでも理解できるように表現しましょう。

# 文章作成のルール

文章を書くときに気を付けなくてはならない基本的なルールについて説明します。

## 1. 書き出しと段落の始めは1マス空ける

小論文の書き始めでは、1マス空けます。また、行を変えたら、それは改行を意味するので、次の行では、必ず1マス空けなければなりません。

## 2. 楷書で書く

「第」を「弟」、「権」を「权」など略字を書くとは減点されます。日常生活で略字を使うことがクセになっている方も、小論文では楷書を使いましょう。また、草書などのくずし文字も使うことができません。

なお、誤字、脱字を直すとき、消して書き直すのが基本ですが、時間がなければ、消しゴムで消したり、印を入れたりして、直に書き直めることもできますが、減点されることを覚えておいてください。

## 3. 1マスに入るのは1字

句読点(。や、)や「 」も1文字分です。ただし、…… ――は2文字分です。

## 4. 行の最初に句読点や閉じ括弧をつけない

句読点(。や、)や「 」が行の先頭にくるときは、前の行のマス目の後ろに加えます。

## 5. !や?は使わない。

!(感嘆符)や?(疑問符)といったエクスクラメーション・マーク、クエスチョンマークは論文で使ってはいけません。これらは感情表現を表す記号ですが、文中で用いると幼稚な印象を試験官に与えてしまいます。

## 6. 数字を書くときは、漢数字を用いる。

小論文で数字を書くときには、基本的に漢数字を使います。

## 7. 制限文字数は絶対に守る。

小論文には文字数制限があります。「1000文字以内」となっていたら、必ず1000文字以内で書きます。ただし、1000文字以内なら何文字でも良いというわけではなく、全体の80%~90%以上を埋めることを目標とします。

また、「900字~1000字以内」という場合には、800字・1字でも超えていればよく、「1000字程度」という場合には、±10%以内が許容範囲となります。

字数制限がなくマス目の無い原稿用紙が配布されることもあります。そのような場合、字数については考えず、1枚あたり600文字~1000字程書くと考えましょう。

## 8. 文字を丁寧に書く。

読みやすい字を書いているかは評価にあまり影響しませんが、小論文の場合は、印象が重視されます(大学院入試には、人物考査の側面がある)。

字は汚いよりもきれいな方が良いに決まっています。できるだけ丁寧に読み手が読むことができる字を書きましょう。

## 9. 文字の濃さに気を付ける。

字の濃さについても意識する必要があります。特にシャープペンシルを使うと文字が薄くなりがちです。試験官は、中年以上の人が多いので、文字は濃くはっきり書きましょう。薄い字は汚い字よりもずっと悪い印象を試験官に与えます。

PART1

# 小論文作成

の解説(基本編)

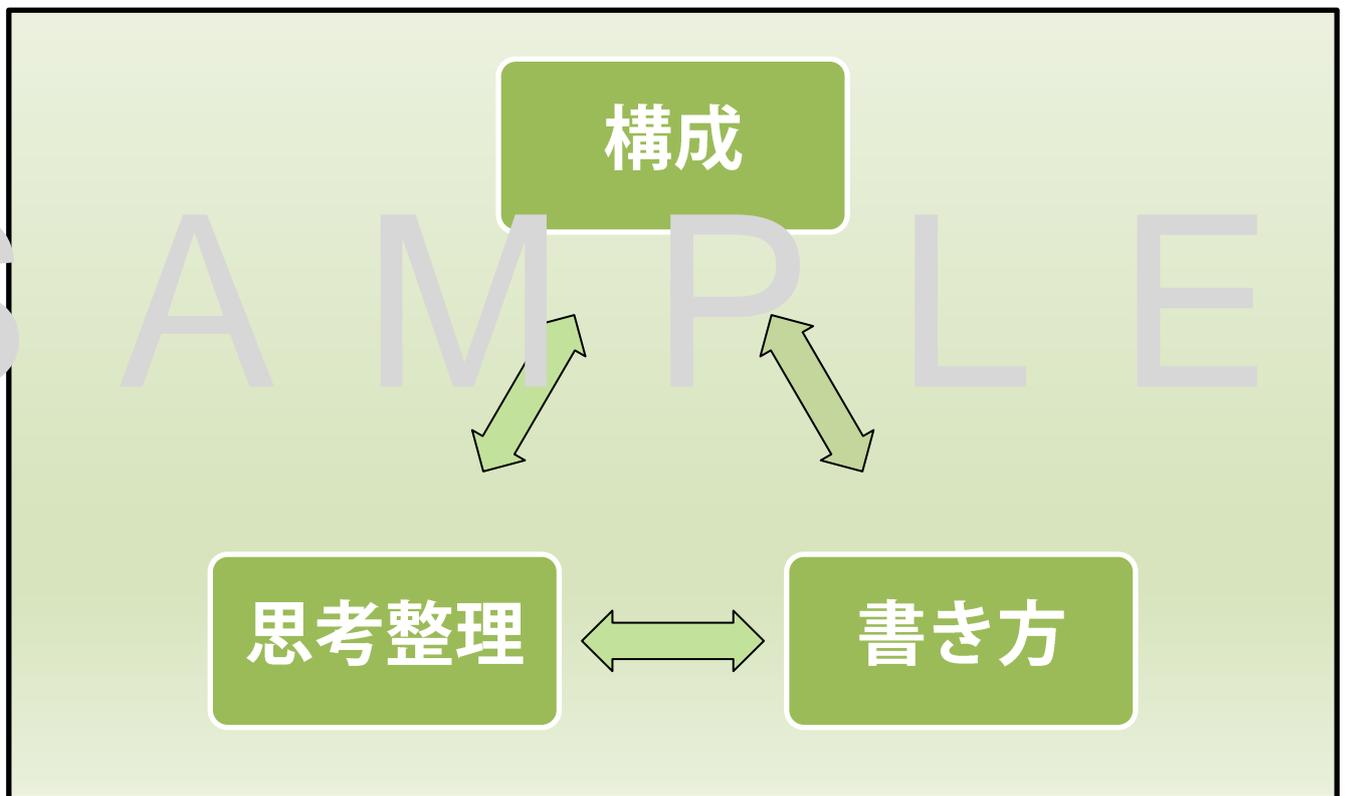
S A M P L E

## 小論文の書き方

説得力のある小論文を書くためには「構成」、「思考整理」、「書き方」について理解する必要があります。この3要素については、すべての小論文に通ずるものなので、小論文を書く練習をするときには常に意識しましょう。

以下の図は、小論文を書くために必要となる「構成」、「思考整理」、「書き方」の3つの要素をまとめたものです。

そして、この3つの要素のうち、どれか1つでも欠けてしまうと小論文としてのバランスが崩れ、説得力のある文章にならなくなってしまいますので気を付けましょう。



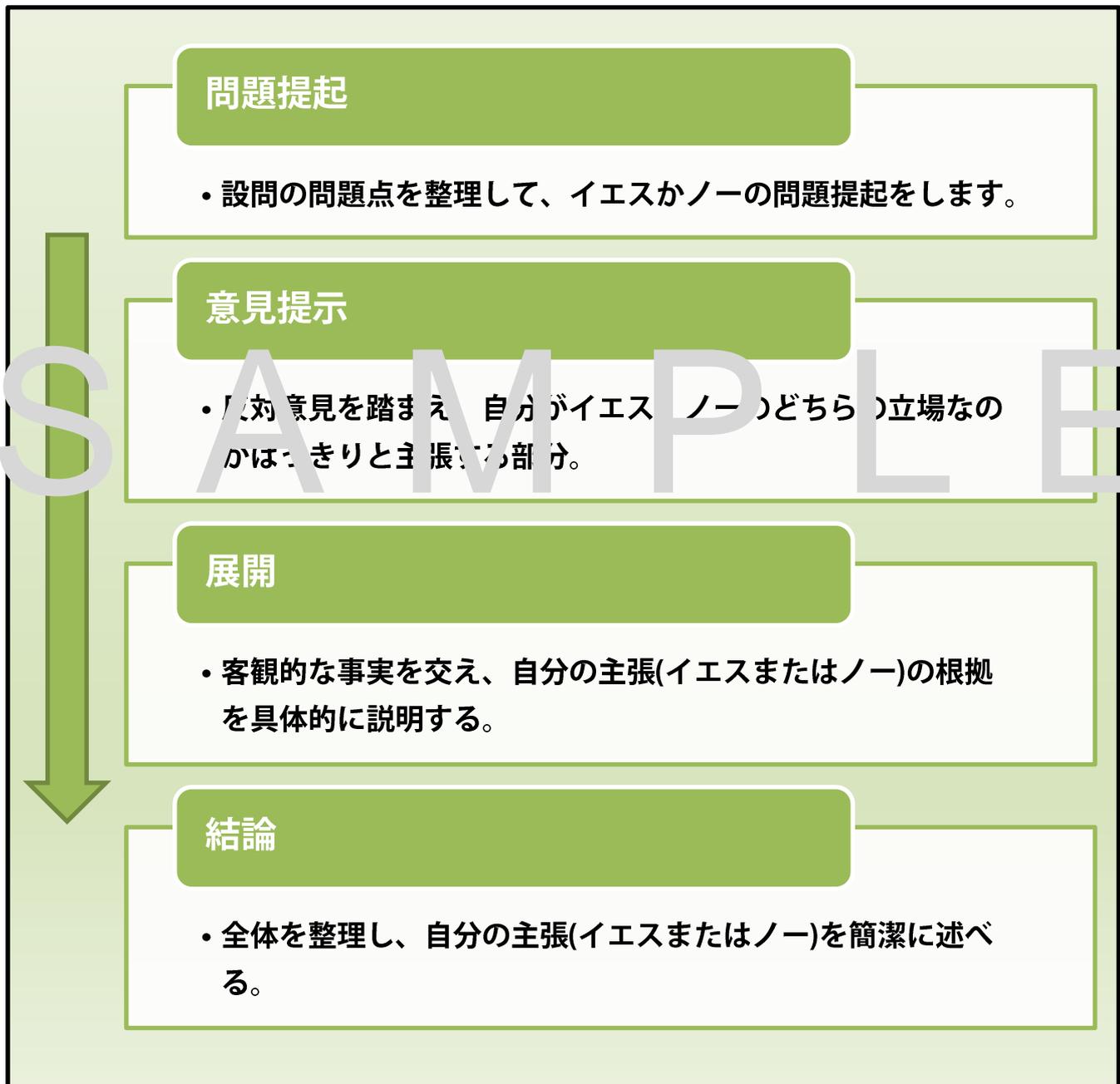
では、次のページから各要素の詳細について解説していきます。

ここで小論文の基本を押さえてしまえば、どのような形式の小論文にも対応することができるようになるので、しっかりと理解し、自分のモノにしましょう。

## 小論文の構成

ここでは、基本的な小論文の構成について見ていきます。この構成に従って小論文を書いていくことで、論理的な小論文を作成することができます。

基本的な小論文の構成は以下ようになります。「問題提起」、「意見提示」、「展開」、「結論」の四部から構成される「四部構成」を意識し、小論文を書きましょう。



次にこれら「問題提起」、「意見提示」、「展開」、「結論」の各項目で、どのようなことを記述すればいいのか具体的な内容を見ていきます

# 1、問題提起

設問のテーマから賛否両論のある問題を提起します。以降は、ここで提起した問題について議論を深めていくこととなるので、自分の持っている知識や理論を最大限に活かすことのできる問題を提起しましょう。

「問題提起」では、全体の10%程の文字数を埋めれば十分です。(1000文字以内と指示があった場合、100文字程)

# 2、意見提示

次に、提起した問題に対して自分がイエスの立場(賛成)なのか、ノー(反対)の立場なのか主張の方向性を明確にします。

例) 経済のグローバル化について、あなたの意見を論じなさい。

問題提起「経済のグローバル化をより積極的に進めるべきか。」

イエス(賛成)の立場 - 「より一層、経済のグローバル化を進めるべきだ。」

ノー(反対)の立場 - 「経済のグローバル化を加速させる必要はない。」

自分の意見が賛成に基づく主張となるのならば、反対意見を持ち出し「確かに～(反対意見)という考えもある。しかし私は～(自分の意見)だと考える。」という形で書き出すとスムーズに小論文を展開させることができます。

また、イエス(賛成意見)とノー(反対意見)の両方の主張を踏まえることで、視野の広さをアピールできると同時に、議論を深めることができます。

ただし、注意しなくてはならないことは、ここで、自分の意見をすべて述べてはならないということです。あくまでも、第二部は意見の提示にとどめ、第三部の「展開」のために、余力を残しておきましょう。

「意見提示」では、全体の30%程の文字数を埋めれば十分です。(1000文字以内と指示があった場合、300文字程)

### 3、展開

第三部では、自分の支持する主張(イエスまたはノー)の背景、原因、根拠などを深く掘り下げ、何故そのように考えるのか、具体的な事実からその理由を明らかにしていきます。

例) 経済のグローバル化について、あなたの意見を論じなさい。

イエス(賛成)の立場 → 「より一層、経済のグローバル化を進めるべきだ。」

理由、根拠 → 「国家の枠を超えた資金移動によって市場の活性化を図り、世界的な経済発展を促すことができる。」

ノー(反対)の立場 → 「経済のグローバル化を加速させる必要はない。」

理由、根拠 → 「巨大な資本を有する大国と途上国との間で国際的な経済格差が拡大する。」

最も自由に意見を述べることができる部分なので、ここで、鋭い意見を出し、試験官にアピールしましょう。

「展開」では、全体の40~50%程の文字数を埋めれば十分です (1000文字以内と指示があった場合、400文字~600文字程)

### 4、結論

第一部から第三部までをしっかりと書くことができているのならば、第四部の「結論」は難しくありません。この部分では、もう一度全体を整理し、様々な議論や考えを考慮した上で、やはり私の考えはこうだとまとめれば、それで十分です。

イエスとノーが入り混じったどっちつかずの意見や、新たな議論の提起などを行わないように注意しましょう。

「結論」では、全体の10%程の文字数を埋めれば十分です。(1000文字以内と指示があった場合、100文字程)

## 思考整理(メモ取り)

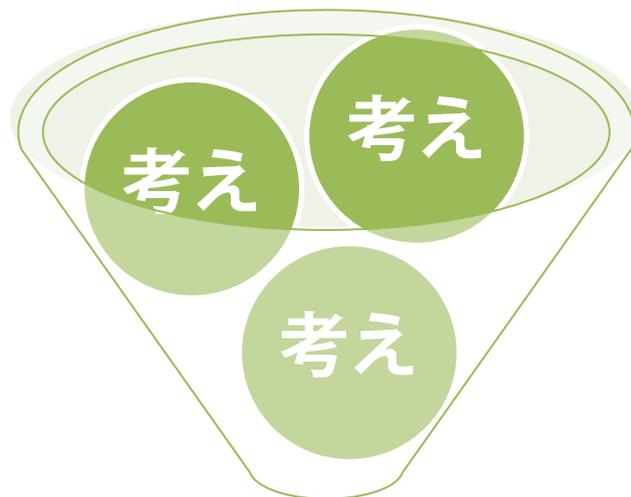
ここでは、説得力のある小論文を書くのに役立つ、思考の整理方法について説明します。

小論文の作成に慣れていない人が、いきなり設問に取り組み、説得力のある小論文を書こうとするのは、あまりにも無謀です。初学者の方は、まずメモを取り、考えをまとめるところから始めましょう。

とはいえ、漠然と考えを整理しろと言われても、小論文を書くにあたって何について考えればいいのかを理解していないと論理的な文章にはなりません。

次のページでは、小論文を書く上でポイントとなる7つの項目についてまとめています。この7つの項目に関して考えを巡らし、その中から使えるようなアイデアを選ぶことで、説得力のある小論文を書くことができます。

そして、当然のことながら、本番の小論文試験にメモを持ち込むことはできません。したがって、このメモを取るということを通して、小論文を書くにはどのようなことを考えればいいのかを理解し、メモを取らなくても頭の中で考えを整理できるようになることが最終目標となります。



様々な考えの中から  
小論文で使えるネタを選ぶ